

平成21年度

西宮市行政方針

すべしは市民のために

まちの発展へ

新たな一歩

私は、昨年11月の市長選挙におきまして、市民の皆様の信託を得て、三たび、西宮市の未来を築くという重責を担うことになりました。

本市にとりまして、昨年は、中核市へ移行するという、記念すべき年でした。また、西宮市参画と協働の推進に関する条例や「第4次西宮市総合計画」

を市議会でご承認いただき、西宮のまちを「一層飛躍させる舞台が整いました。

新年度は、これまでのまちづくりの成果をさらに発展させ、この西宮が阪神都市圏において輝きを放ち、地方分権時代をリードする個性豊かなまちとして、新たな第一歩を踏み出す予定です。

私は「すべては市民のために」との強い決意のもと、夢と希望がかなう「文教住宅都市・西宮」の実現に向けて、市民の皆様とともに取り組んでいきます。



子育て世代に対する支援策をより一層進めていきます。子どもたちの笑顔輝くまちに

今年の秋以降、アメリカに端を発する金融危機に伴う、100年に一度といわれる世界規模の景気後退、株価暴落などの経済情勢の変動による企業の減産などから、全国の各地域で大幅な雇用調整が行われるなど、経済・雇用情勢を取り巻く急激な変化が続いています。こうした景気の後退は、健全化への歩みを進めてきた本市の財政にも影響を及ぼしており、今後の社会経済情勢の推移を見極めながら、事業・施策の標準化や優先度付けを行うなど、堅実な行政運営に努めていきます。

人形劇まつりの開催など いきがい つながり



市民の皆さんがつくった舞台芸術を応援する市民プロデュース事業「西宮虹舞台」

いまい・つながりについてです。少子高齢化や核家族化の進展、市民意識の変化などにより、人々の地域社会への帰属意識や人と人とのつながりが希薄化しつつあります。こうした状況のなかで、今後、定年退職をむかえる人々の地域社会での活動を促進するため、新たな事業の展開が求められています。

新年度は、「団塊世代対策基本方針」に基づく施策を推進します。また、生涯学習大学「宮水学園」事業を拡充し、体の不自由な方など通園が困難な人々のために、ラジオ講座を開講します。また、文化とスポーツの盛んなまちづくりを進めます。本市は、10を数える大学・短大、多

「第4次総合計画」が始まる 新年度は、これからの西宮のランドデザインとなる、第4次西宮市総合計画がスタートします。この総合計画は、本市が平成21年度からの10年間、中核市として一層魅力あるまちづくりを進めていくための指針となるものです。

新年度の主要な取り組み 子どもたちの笑顔があふれ、

わが国では、ここ数年各地で地震や風水害に見舞われ、近い将来には、東南海、南海地震の発生も予想されています。こうした自然災害や、さまざまな事

め、市民がいつでも、どこでも、

以上のような考え方を基本として、新年度に実施する主要な事業・施策について総合計画の施策の大綱に沿ってご説明します。

イの豊かさや、これまで積み重ねてきたまちづくりの実績が皆様に評価されたもので、本市の人口は、若い子育て世代を中心に増加の一途をたどり、今や、48万人に迫ろうとしています。

私は、市民と市が地域の課題をともに考え、解決していくことが、市民の西宮への思いを生かしたまちづくりにつながるものと思っています。

福祉の充実、すべての人の願いです。年齢や障害の有無にかかわらず、住み慣れた地域で、互いに支え合い、助け合い、生涯にわたって安心して心豊かに暮らせる社会を実現しなければなりません。私はこうした願いや思いを大切に、保健医療・福祉の連携を図りながら、質の高いサービスの提供に努め、福祉のまちづくりに取り組んでいきます。

さらに、まち全体が元気であるためには、地域産業が活性化しなければなりません。産業振興のための組織の強化を図り、産業界と連携して活性化に取り組んでいきます。

このようなことから、限られた経営資源を有効に活用し、最小の経費で最大の効果を生み出すよう、事業の取捨選択や資源の最適配分につながる行政マネジメントシステムの構築に、引き続き取り組み、市民満足度の高い行政運営を行ってまいります。